

鹿児島県

団体部門

しんかいぎょけんきゅうかい
かごしま深海魚研究会

鹿児島を西の深海魚王国に



鮮魚店でのうんまか深海魚の対面販売



料理店によるうんまか深海魚のメニュー開発

取組概要

- 消費量が少ない深海魚を核にした、水産業と飲食産業の活性化の取組を行うことを目的に、令和2年に産官学で「かごしま深海魚研究会」を設立。
- 「うんまか深海魚」をブランド化し、コロナ禍で苦しむ飲食店や鮮魚店に、ポストコロナにおける新しい観光資源としての深海魚料理を提案。
- 参画事業者との連携を深めながら、「西の深海魚王国」としての鹿児島を県内外にアピール。

活動成果

- 漁業者の高齢化、後継者の確保が困難な中、未利用資源の有効活用により収入が増加し、操業のモチベーションがアップしつつある。
- 参画店舗数は、取組当初の13店舗から、約50店舗に増加。
- 令和3年度には、東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア2021」に出展。県内の児童を対象に「うんまか深海魚イラストコンテスト」を実施し、ハマダイをモチーフにした当研究会のキャラクターが誕生。

かごしま深海魚研究会

鹿児島県鹿児島市薬師1丁目19-15 株式会社オクテオ内 Tel: 099-286-4152 Fax: 099-286-4152

団体部門

たねがしま おきがはまだ こくとう せいさんきょうどうくみあい

種子島沖ヶ浜田黒糖生産協同組合

種子島だけに残る登窯の三段舟型伝統製法で作る黒糖の美味しさを移住者が中心に継承していく活動



サトウキビを手作業で収穫



搾汁液を登窯舟形鉄平鍋で煮詰めていく

取組概要

- H30年、100年以上続けられてきた伝統製法による黒糖製造が廃業に危機を迎えたのをきっかけとし、協同組合を法人化して設立。現在5件の地元農家と、3名の移住者で構成。
- 沖縄産、奄美産よりもサトウキビの糖度が低いことを逆手に取った甘さ控えめの黒糖を、サトウキビの手作業による選別等により、食味にこだわって製造。
- 黒糖生産のこだわりをブランド化し、新商品を開発し、ネット販売に挑戦。

活動成果

- 移住者の若者を新規雇用し、黒糖用のサトウキビ栽培技術と伝統の登窯三段舟型平鍋による技術を継承・発展させる取り組みを実施
- 新商品開発のクラウドファンディングに挑戦し、目標を大きく超える金額が集まった。SNSページの会員数も500人を超えている。
- 栽培体験、加工体験等の体験ツアーを企画し、種子島の伝統的な技術を使用した固有のブランドの確立を目指す。

種子島沖ヶ浜田黒糖生産協同組合
鹿児島県西之表市伊関1115番地

<https://okigahamada.com/>
Tel・Fax : 0997-28-0240

団体部門

かごしまけんりつのうぎょうだいがっこう のうがくぶ やさいか
鹿児島県立農業大学校 農学部 野菜科

サスティナブル農業～廃品活用で地域活性化～



原料となる外来魚捕獲で環境活動



発表会において取組を紹介

取組概要

- 地域農業に役立つ活動になるのではとの思いから、釣った外来魚を原料としたオリジナルの国産液肥の開発を開始し、廃乳や藻、ホテイアオイ等の地域の未利用資源を活用して開発に成功。
- 取組の成果を、学生の母校訪問や地域住民への販売会、HP、SNS等、多方面で発信。
また、生産性の向上を多地域へ広げたいと「知財創造教育セミナー」において、他大学、高校等へZoom会議で取組を紹介。

活動成果

- 化学肥料の削減とゼロエミッションを目指した地域未利用資源活用による肥料開発で、市販の液肥と比べ、作成コストは97%の削減につながり、ミニトマト・パプリカで糖度が上昇する。
- 原料となる外来魚の駆除の実施により、生物多様性の保全にも寄与。
- 多様な学習環境に触発されて、就農はもちろん、鹿児島大学農学部に毎年のように編入するなど、学生の進路の充実につながっている。

鹿児島県立農業大学校 農学部 野菜科

鹿児島県日置市吹上町和田1800

Tel : 099-245-1071 Fax : 099-296-6352

もりのがっこう
たからべ森の学校

「学校はみんなのもの」～元中学校で地域活性化～



たからべ森の学校 星の宿 宿泊の様子



教室内のグランピング施設

取組概要

- 平成25年に、旧財部北中学校において再就職を目的とした国の離職者向け公共職業訓練施設「農業人材育成科」を開校。
- 平成27年から曾於市と一緒に地方創生事業として、「学校恋活」や、「曾於ライフ魅力アップ事業」などを企画・運営。
- 平成30年には、学校体験型宿泊施設「たからべ森の学校 星の宿」をオープン。令和4年には教室の中にグランピング施設を開設。

活動成果

- オンラインイベントでは都市部からの参加者が大幅に増え移住につながるイベントを開催することができた。
- 元中学校を活用した森の学校が、アナログな体験を通して、人と人との触れ合いや感動体験を提供している。
- 令和元年から有害鳥獣による農産物被害の対策として、「合同会社財の森」を設立し、ジビエの商品開発を進めている。

たからべ森の学校 <https://t-morinogakkou.jp/>

鹿児島県曾於市財部町北俣5410-1 Tel : 0986-28-6120 Fax : 0986-28-6121

38 鹿児島県 霧島市

6次産業化

地産地消

食育・教育

団体部門

むくしよくどう
無垢食堂

EAT LOCAL KAGOSHIMA



地元産の旬の野菜や6次産業化製品が並ぶ物産館



修学旅行生の受け入れ

取組概要

- 令和元年にレストラン併設型の物産館としてオープン。旬の食材の食べ方や調理法の提案を丁寧に発信することで、物産館での地場産品の消費を拡大。
- 自治体や生産者等との関わりが徐々に深まり、野菜や未利用魚などを使った6次産業化等にも注力。
- 修学旅行の受け入れを行い、味噌、豆腐づくりなどのワークショップや、食の環境負荷、地域づくりなどをテーマにした講演活動を実施。

活動成果

- 業界を超えての顔の見える繋がりや、同業者同士の建設的な勉強会、商品開発等により、これまでになかった販路の拡大や、消費者からの直接的なフィードバック等、多くの成果が現れている。
- 地元の生産協会等から、レシピ開発などの依頼を受けるようになっている。
- 地元の20代～70代の雇用にもつながっており、働きやすい職場づくりに注力。

無垢食堂

鹿児島県霧島市隼人町内1487-1

Tel : 0995-56-8615

団体部門

いっぱんしゃだんほうじん いもーれあきな

一般社団法人E'more秋名

50年後も子供達が住みたいと思う地域づくり



あらば食堂の看板メニュー
“おっかんの旬替わり定食”



地域語り部による集落歩き体験

取組概要

- 龍郷町内で最も過疎が進む場所で、龍郷町の後押しを受けながら、地元住民と地域おこし協力隊が協働し、人を呼び込む活動を立ち上げ。
- 空き家をリフォームした一棟貸宿の宿泊事業や、旬の地場産食材を中心に島料理を提供する「あらば食堂」の運営、地域語り部による集落歩き体験等により地域住民とのふれあいや地域の暮らしぶりを伝承。
- 大学生を対象にインターンシップを導入し、強い関係人口づくりを推進。

活動成果

- 地域の主婦が旬の地場産食材で島料理を提供し、若手主婦が調理を補助することで食と暮らしぶりを伝承。
- コロナ禍を逆手に、「島民はわざわざ島料理を食べに来ない」という思い込みを覆し、島の暮らしに向き合う姿勢を一層強化。
- 食堂利用者は年間5千名を超え、清掃も含めて12名の雇用を創出。

一般社団法人E'more秋名

鹿児島県大島郡龍郷町秋名1767-1 Tel : 0997-58-8842 HP : <https://e-akina.com/>

団体部門

かぶしきがいしゃ
株式会社リーフエッチ あまみん

ジェラートで農福連携と南西諸島をPR



南西諸島の主要な島々からのラインナップ



パッケージは障がい者のデザイン

取組概要

- 近隣農家の手伝いやハーブの自家栽培を行う農福連携を実施。
- 当初から、農家からの労働対価を現金ではなくフルーツでいただき、それを加工し商品化することで現金化、利用者の賃金とする仕組みを模索。
- 奄美大島産のフルーツや南西諸島の食材を主役にできる加工品としてジェラートに着目。各島が個々の素材のみをPRするには限界がある中、ジェラートというくりにパッケージングすることで、島々の魅力を引き出し、商品として表現。

活動成果

- 労働対価をフルーツでいただくことで、農家の労働力不足解消と金銭的負担の軽減を実現。
- ジェラートの販売展開や、施設敷地内及び奄美空港内へのジェラテリアのオープンにより、観光客への露出も増加し、各島々の素材のPRにも寄与。販売額の増加に伴い、利用者の賃金も向上。
- あまみんの利用者の就職先を、あまみんの作業と環境の延長線上に作るため、農業法人(株)あまみあぐりを設立。奄美らしい持続可能な農業の独自のスタイルを確立する。

株式会社リーフエッチ あまみん
鹿児島県大島郡龍郷町大勝578

Tel : 0997-62-5260

せがわ ちか
瀬川 知香 氏

農業・観光連携で課題解決と新たな価値の創出



1日1組限定の古民家宿



農家向け農家民宿開業セミナー



農業体験プログラム

取組概要

- 地域課題である空家を資源とみて、古民家宿の運営、体験型観光商品の企画・販売等を実施
- コロナの影響による観光客激減の打開策として、観光業に固執せず、繁忙期の農作業の従事、加工品の開発・製造・販売等、業種を超えた連携、複数業種を掛け合わせた働き方の強化を実施。
- 新たに茶畑に囲まれた空家を改修し1日1組限定の宿泊施設の開業。あわせて敷地内の未使用の倉庫を改修・活用し野菜の販売も行い、農業と観光の連携を体現。

活動成果

- 空家を活用して農業と観光の発展・交流の創出、地域経済の循環、観光の要素を取り入れることで若者や女性の農業従事者の増加が期待される。
- 副理事長として活動しているNPO法人 頰娃おこそ会の役員の3分の1は女性になり女性の活躍の場が増加。
- 半農半観という地域ならではの働き方を定着させるため、主に農家を対象とした農家民宿開業セミナーの実施や個別相談に対応。

瀬川知香氏

鹿児島県南九州市頰娃町別府503-4

<https://www.fukunoya-ei.com/>

Tel : 080-6409-1850